

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第019000058号		
法人名	(株)ユニマント リタイアメント コミュニティー		
事業所名	江別ケアパークそよ風 しらかば		
所在地	北海道江別市1条3丁目12-2		
自己評価作成日	令和1年6月28日	評価結果市町村受理日	令和元年8月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kiho_n=true&JigyosyoCd=0191000058-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員不足も解消されつつあり本来のグループホームに戻すべく入居者様とのコミュニケーション・室内レク・外出レク・外食レクに力を入れている。又、さらなる家族様との交流を図り関係性の向上に努めている。2ユニットありお互いの交流もできるよう解放的な空間をつくっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

江別ケアパークそよ風は、最寄りの駅やバス停から近く、周辺はスーパー、金融機関、公共施設等が建ち並び、生活しやすい環境にある。5階建て複合施設の3階に位置し、建物内の3カ所の系列福祉事業所とは、避難訓練など運営面に於いて連携体制にあり、良好な関係を築いている。課題であった地域との密なる交流は、職員の努力により、囲碁や散歩、紙芝居、芸能ボランティアを受け入れ、利用者の五感を刺激する場面になっている。幼稚園児の歌や遊戯の披露への感謝として、利用者手作りの首飾りや雑巾を贈呈している。職員は、家族との関係性強化に向けてさらにコミュニケーションを取り、共に利用者を支えて行く関係作りに取り組んでいる。職員は、余裕ある人材が確保出来たら、利用者がもっと笑顔になれるよう、明るく楽しい寄り添いの時間を多く持ちたいなどの要望を抱き、日々のケアサービスに励んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します											
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある			○	3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員と共有し、同じ方向性・目標に向かうよう日々念頭に置き行動し実践に繋げ共有を図って行く様努力しています。	利用者を主体とした事業所独自の理念を各ユニット等に掲示し、職員のみならず来訪者にも周知を図っている。職員は、利用者が笑顔になれるケアサービスに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ地域との交流が不足しているのが現状で、今後地域との関係性を取りながら社会との関わりを積極的に取り組んでいくものと考えます。	職員の積極的な取り組みにより、囲基や散歩など、各種ボランティアの来訪がある。幼稚園児の歌や遊戯のお礼に、利用者手作りの首飾りや雑巾を贈呈している。	町内会に加入しているが、行事への参加には至っていない。地域密着型事業所としての役割の再確認と相互の行事を通しての交流に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解は少しづつ進んで来てはいるが、支援の方法がまだ発信しきれておらず、地域との交流の方向性を模索して行かなければと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は外部の方々から意見・要望を聞ける方法の一つとして重要な手段であると思います。それを基に真摯に受け止め改善を図り暮らしやすい施設を目指すきっかけにして行きたいと思います。	会議は、家族や知見者、地域包括職員の出席を得ている。利用者の状況や事故、ヒヤリハット、外出行事などの報告後に、メンバーとの質疑応答や情報交換が行われている。	会議に地域住民の参加要請と併せて議事録の整備、事業所内での掲示に期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当部署との連携を図り、当施設の考えを理解して頂くのと直面している課題分析とその方法を話し合い協力関係を築き上げて行くことに取り組んでいく。	事故報告や介護認定更新時など、行政機関との関わりは、主に管理者が行っている。統括管理部門の役職者も行政と繋がりがり、得られた意見や情報を運営に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に社外社内研修を積極的に受講し身体拘束の意味と禁止に努めるよう実施していく。利用者の人権を第一に考え日々創意工夫・連絡相談を行っていく。利用者にとって安全かつ自由な生活を目指して行く様取り組む。	身体拘束や虐待をしないケアの周知徹底は、指針やマニュアルの整備、適正化委員会の開催、内部・外部の研修会や勉強会で、職員の共通認識を図っている。管理者は業務上でも助言をし、正しい理解に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を徹底的に防止し、より過ごしやすい場を提供出来るよう関係機関とも協力し合い取り組んで行き早期発見、根絶していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が少なく、必要性や活用に至っていない現状がある。家族や職員に周知すると共に理解できるように研修等の場を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約時の際は丁寧かつ分かりやすい表現にて説明と納得いく様心がけております。家族や本人に安心して暮らせるよう常に配慮していきます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見要望を率直に受け止め反映させていく場を設けて行きより、良い施設にしていけるよう徹底する。	家族には、利用者の日常を月1回の事業所便りや、面会時、電話で報告している中で、意見を傾聴している。利用者が喜ぶ事をさせて欲しいとの要望に対して、レクリエーションの充実に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営を職員全員で理解し担っていき意見交換が出来る機会と努力が必要と考える。自分で考える力と行動力が運営を活性化すると考える。	管理者は、日々の業務や面談等で職員とコミュニケーションを取りながら、運営上の意見や提案を受けとめている。各研修会参加の促しや業務分担を図るなど、職員の資質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整える事により個々の個性や意欲の向上心が生まれ活気あふれる職場となる。離職者の減少にも繋がり利用者とのより良い関係も生まれてくる。ルール決めや役割分担をすることにより仕事の軽減を図ることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員への面談や日々のコミュニケーションを図り、課題・悩み・目標を理解し個々人の能力を理解し研修・資格の取得トレーニングを行っている。新人教育にもメンター・メンタルトレーナーによる教育も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ建物内に4つのセクション事業所があり同じ施設内での連携を図り利用者様や家族に対しより良いケアを選択する事が出来る。他施設との意見交流・意見交換を行う事でサービスの向上に繋げて行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初見で感じた事や、疑問に感じた事は記録に落とし本人・家族と意見交換行い解決していく努力を怠らない。そこで信頼関係を築き本人にとって暮らしやすさに繋がると考える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対し困っている事、不安をしっかりと理解し家族の気持ちに寄り添い一緒に考え問題解決に取り組む、そうする事により家族との信頼関係を築くことに繋がる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望・悩み等現状把握しその方に合ったサービス事業所の選択肢を告げ問題解決に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である事を念頭に置き本人の生活状況や仕事を把握し必要とされる介護・支援を適切に把握し安心安全に生活できるような場を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・職員が一体となり現状の把握と体調変化・生活状況を把握して共に本人を支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人へも解放された環境を提供しつつでも訪問し本人との交流が出来るよう行っている。	家族や知人の面会時は、寛げるよう居室に案内している。恒例の桜見物、不在者投票の支援など、入居前の生活基盤の維持に努めている。家族の支援で、外泊や外食、墓参りが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	解放された場所の提供と個々の性格・趣味嗜好を職員が把握した上で交流して頂き、また新たな環境も提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了と同時に関係性が終了したと考えずにその後の相談や支援に応じて行く姿勢は大切に持って行きたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人一人の考えや暮らしを考慮し要望などには耳を傾けしっかりと傾聴しカンファレンス・アセスメントし検討していかなければならない。	利用者の要望は、日々のケアや家族の意見等で把握し、記録に残している。内容によっては介護計画に反映するなど、利用者の生活を支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの個々の生活歴を職員と共有し本人と共に話をして関係性を築いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全てを叶える事は難しいが個々の能力は把握し職員全員で理解しやりがいのある生活環境作りには努力は行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題分析を行うに当たりアセスメントやモニタリングを取り、現状に合った介護計画を作成し、課題分析を話し合っって良い方向性に向かって行けるよう努力している。	介護計画作成時は、関わりから得られた利用者の思いや求めていること、家族の思いを基本に、担当者会議で、利用者にとって最適な支援になるよう協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の記録に対する向上や個々の特長の見極めに個人差が見受けられるので、記録の教育や観察力・気づきの出来る教育を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護に対する情報収集や法律の理解をし常に新しい情報を吸収し既存のサービスにこだわらない柔軟なサービスに取り組まなければならない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は何かを把握し活用出来るよう取り組んで行きたいがその術がまだ見当たらない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に担当医の協力を得ながら家族や本人も元気に暮らしていける安心感がある。医療連携をしっかりと行い利用者の健康管理の把握が出来ている。	受診先は、利用者や家族の意向を受け入れ、家族が支援している。協力医による訪問診療や、訪問看護師の健康管理も定期的に行われ、健康状態は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との協働は築けており日々の状態の報告・連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のカンファレンスへの参加を行い情報交換を行っている。又、家族への状況説明もしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた支援の指針は事業所内で十分話し合いを設け全員で同じ方針で取り組めるよう医師・家族との連携を図って行く。	入居時に、指針に基づき重度化や終末期の対応を説明している。段階的に、主治医と家族を交えた話し合いがもたれているが、現在は看取り支援のケースはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の普段の状態を把握し変化に気づけるよう日々研鑽して行けるようにする。応急処置や初期対応の研修を行っていく体制やマニュアル作りを整える。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに応じた対応と職員全員の把握と訓練の実施を定期的に行う。又行っている。	年2回消防署指導の下、系列3事業所と合同の火災避難訓練を行い、1回は夜間想定としている。周辺には2カ所の河川があり、それらを踏まえて自然災害への取り組みが行われている。飲食物等の備蓄品も用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活を送るに当たりプライバシーが時折わすれている現状はある。職員全員に今一度人格の尊重とプライバシーの保護・声かけの徹底を行う。	トイレ誘導時の声かけや入浴時は、同性介助の要望を受け入れるなど、節度ある対応に努めている。不適切な言動には、管理者が都度注意や助言を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で些細な事でも自己決定は本人らしいので生き方に繋がる様、細かな声かけや気持ちを汲み取れるよう支援していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムは崩さず個々人のペースで過ごせるよう支援し強要はせず自己決定を尊重し見守る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の能力を生かし本人にとってのオシャレや衣類の選択の意思確認をし納得して一日を過ごせるよう支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって食事は一番楽しみな物であり生きていく上で必要不可欠なものである。利用者の立場に立ち嗜好の把握をし出来るだけの対応をして楽しんで頂く。また、利用者と共に食事づくりや後片づけも一緒に行う事でやりがいを感じて頂けている。	業者から調理済みの副菜が届いているが、買い物をして新たに刺身をつけ足すなど、食の楽しみに繋げている。中庭での焼肉、外食、宅配に加え、餅やおはぎ、クレープ等を利用者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量・水分量を把握し記録をしている。個々の好みやリクエストに応じた飲み物の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後の口腔ケアの実施は行っており歯科医との連携を図り汚れや臭いが生じないように行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援は日々は日常のデーターを取りながら状況を把握して行くことで、トイレへ行くタイミングや仕草などで把握し自尊心を尊重しなるべくトイレでの排泄を促している。	全利用者の排泄状況を記録し、状況に応じて誘導や見守りを行い、トイレでの排泄に努めている。下着や衛生用品の使用時は、利用者や家族と検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の排泄パターンを記録し常に把握し排泄ない場合は医師・看護師に相談した上で対応を行う。また、水分の促し、乳製品提供もおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴により清潔の保持・皮膚確認を行い心身共にリフレッシュして頂く。又、入浴は危険も伴うためバイタル確認と見守りに集中して行う。利用者が同じ日数は入れるよう入浴表にて管理している。	入浴は、午前と午後に週2回を基本としているが、受診前や入浴希望には、柔軟に対応している。色と香りを楽しめるよう入浴剤を使用し、一人入浴、要望によるシャワー浴、二人介助を行い、保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の意思にて自室やロビーのソファ等で自由にくつろぐ事ができる。夜間は居室の灯りの調整や共有部分の灯りを調整し安眠できる環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については医療関係者との情報の共有、薬の内容や目的に合った服薬を的確に行えるよう確認と本人の状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事・レク・趣味活動・家事活動等個々の能力・趣味に応じ対応しボランティアの協力を得ながらおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力とボランティアの協力のもとに外出の機会を設け行っている。職員による行事・レクも毎月定期的に行い楽しんで頂いている。	ボランティアの協力を得て、町内を散歩している。散歩途中に店に寄りアイスクリームを食したり、外出行事で外食を楽しむなど、地域との触れ合いにもなっている。家族の外出支援も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状はお金については施設管理にて行っているが、お金を使う機会を作って買い物や食事等も行っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る方については支援したり携帯電話の使用もしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースをいつでも自由に使用して頂き趣味や読書、TVなど個人の意思を尊重しながら配慮している。	ユニット間は自由に行き来できる。全体的にゆとりある造りになっており、冷房の効いた居間には、利用者のレクでの作品や、七夕飾り等が置かれている。窓からは、街並みや河川、通過する列車が眺められる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同様に気の合った方同士の空間やくつろげる椅子等用意しているので自由に過ごされている。又、職員は自由な空間作りや提供も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族本人には家で使っていた家具や寝具、飾り等は持ってきて頂くよう話し自宅で過ごしている環境作りに配慮している。そこで自分らしい生活をして頂けるよう行っている。	居室には、クローゼットが設置されている。写真やぬいぐるみ、家族写真などを持ち込み、自分の部屋として生活できるよう工夫が見られる。場所によっては、窓から花火大会を見ることが出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子・杖・歩行器を使用している方が自由に行き来できる様な動線を確保すると共に危険回避も視野に入れ事故や転倒の無いように配慮して行く。		